

第2回産業と活力専門分科会議事概要

1. 日時

平成19年3月12日（月）13:00～15:30

2. 場所

ポルファートとやま

3. 出席委員（敬称略）

長尾座長、浅野委員、梅崎委員、小柳津委員、清川委員、坂田委員、新道委員、多仁委員、谷本委員、水口委員、吉田委員、吉田委員（計12名）

4. 議事（概要）

（1）開会

（2）資料説明

事務局から検討資料、参考資料について説明

（3）意見交換

（4）座長とりまとめ

（5）閉会

今回は、5月か6月に開催予定

5. 主な発言内容

- ・東アジア・北東アジアを製造拠点と考えるか、販売拠点と考えるか、マーケティング戦略が必要である。
- ・ラスベガスはカジノビジネスで名をはせたが、現在は、観光にシフトしており、ショービジネスやコンベンションで有名となっており、時代の変化に対応した発想の転換も必要である。
- ・酸性雨や黄砂による日本海側の地域への影響を軽減するためにも、東アジア・北東アジアにおける環境に関する社会的課題の解決に貢献する意味は大きいものがある。
- ・シームレスアジアの実現のためには、国内法の整備や道路交通政策の充実などが必要である。
- ・国際的物流機能の向上を1番目に上げていただきありがたい。大きな投資が必要となるが、中国では14、5年前から港湾に投資することにより現在の繁栄つながっている。投資の背景に明らかな根拠がないから出来ないということではダメであり、先行投資も必要である。
- ・今や太平洋側にしか大きな港がないということは許されない。競争力のある地方港湾を作るためにも、港湾の管理を民間企業化して、港湾への企業の新規参入も容易にするような仕組みが必要である。
- ・10年先を考えると、世界人口の1/3を占める中国とインドを無視しては考えられない。ブランド化と簡単に言うが、ブランドとして通用するには最低でも10年かかる。
- ・水素エネルギー（水素エネルギー）なども含めた総合エネルギー戦略として、エネルギー拠点

化政策も必要ではないか。

- ・職人を養成する機関の立地が見られるが、旅館でも仲居のなり手がいない状況である。特に技能・技術を必要としないサービス部門と技能・技術を必要とする専門部門のような部門毎の人材養成機関が必要である。
- ・食の安定供給だけではなく、例えば、米以外の農産物や水産物などは、食の質や多様性も考慮すべきである。北陸はそうした考慮のできる地域である。
- ・北陸の産業立地を見ると、それぞれの県で特徴が現れており、その立地条件やつながりなどを調べてはどうか。
- ・伝統野菜である「まな」や和紙の材料である「がんぴ」の栽培を進めているが、鹿や猪により全滅状態となっている。伝統産業を守るためにも獣害対策が重要である。
- ・金箔関係では、中国の雁皮紙を使用しているが、地場産品を使えるのであれば、それにこしたことはないので、情報を共有することにより連携した取り組みも可能ではないか。
- ・塗師などの育成のために伝統技能や技術を教えても、「活かす場」がないため人材が育たないので、地域の技能や技術を守っていくためにも「活かす場」が必要である。
- ・モノづくりだけでは不十分であり、販売まで北陸に軸足を置いて取り組まないと、北陸でのブランド形成はできない。
- ・台湾や韓国の観光客は雪やゴルフと温泉を目的に来ているが、小松空港へ長野県白馬からのバスが迎えにきていることもある。北陸にもスキー場があり素通りされない工夫が必要である。
- ・山口県下関市の大丸デパートでは、15年前から週1回女性社員を対象にハングル語講座を行っており、九州や中国地方では東アジア交流に早くから取り組んでいる。北陸の人は自分たちが暮らしやすいと満足してそこで終わってしまっている。
- ・ロシアの富裕層は日本ではなくアジアの方へ観光に行っている。日本に来てもらうため、日程別、目的別の観光メニューを用意する必要がある。
- ・外国語による案内表記は道路や駅にもっと増やすべきである。
- ・奥の細道逆走ツアーを行っているが、日本海側と太平洋側では「奥の細道」の観光への活かし方が違っている。宮城県松島では歌を詠んでもいないのに大々的にPRしているが、多くの歌を詠んでいる日本海側ではほとんど観光名所になっていない。芭蕉ファンは日本全国にいたるとともに世界30カ国に及んでおり、交流人口を増やすためにも観光メニュー化を考えてはどうか。
- ・日本酒はうまみがあり、世界のどのお酒にも引けを取らず、世界ブランド化は可能である。
- ・「ものづくり」を体感しない者は、大きくなっても「ものづくり」に取り組まないという発想のもと、3年前から小中学生を対象にメッキを体感してもらう授業を行っている。
- ・少子化対策も重要な柱となる。
- ・福井県は2世帯同居、共働き家庭が多く、出生率も高い。女性の就業という視点も重要ではないか。全国で3000万人いる専業主婦に職場復帰してもらえば、相当な労働力の確保になる。
- ・女性の就業のためには子育て環境としての医療、教育、文化などインフラ整備も重要である。
- ・北陸圏の大学生の絶対数も減少しているなか、他地域へ進学した者は帰ってこないことから、ヨーロッパに見られるように学費全額補助するような大胆な発想で、人材流出を防ぐことも

必要ではないか。

- ・北陸圏は車社会であるが、公共交通機関の整備も重要である。また、起業家精神を喚起する必要もある。
- ・東アジアに目が向いているが、ウラジオストクからシベリア鉄道でヨーロッパへ行くシベリアランドブリッジの活用も考える必要があり、環日本海側の港湾の特色としても打ち出せるのではないか。
- ・全体的に議論が少し暗い気がする。もっと夢があっても良いのではないか。
- ・日本海はひとつの湖という発想でT S L（テクノスーパーライナー）の計画もあるが、太平洋側との差別化のためにも再検討してはどうか。
- ・現状の延長からの考え方、将来の姿からの逆算した考え方と2つの考え方があるが、双方の突き合わせも必要である。

（速報のため、事後修正の可能性があります。）